

運営で最も大事だと思うこと

文責：根橋 拓也
(日吉研究会 2013 年 18 期会長)

この資料では、日本模擬国連日吉研究会の運営を通じての体験をもとに今回割り当てられたテーマである【運営で最も大事だと思うこと】と自分なりに向き合ってみた。冗長な文章をひたすらに記載するのではなく、項目立てて多角的な視点から今テーマと結びつく材料について言及し、最終的には簡潔かつ納得した形で【運営で最も大事だと思うこと】という結論に収束していければ幸いである。

【 I 】組織運営を知る

i) 早すぎる運営代？

大学の学生団体の中の数多くは、運営代というものが存在する。組織への思いと経験と責任感が生きる所属 3 年目がまさにその時期に当たるとされ、多くの団体は 3 年生による運営によって、その活動を支えていっている。そういう世間の事情を鑑みても、私の所属していた日本模擬国連日吉研究会では運営代の時期が 2 年目に訪れ、さらには 1 年次の秋には運営代で担うべき自分のポジションを決めることになるのは、特殊なケースであったろう。この特殊な環境の設定には、メリット・デメリット共に多くの項目が挙げられる。完全な私見ではあるが、次項以降でみていこう。

ii) 運営代の時期－メリット－

大学生として学生団体を運営するにあたって、運営代が早く訪れることによってどのような恩恵が得られるのか。

- ・ 1 年間でフルに活かし、責任感のしっかり伴った運営を完遂できる。
- ・ 人数によるマンパワーが活かせる。
- ・ 早期に成長の場を与えられる。
- ・ 早期的に組織に対する意識の向上が養える。
- ・ 運営終了後、経験を活かしてさらに上のステージで活躍できる。

iii) 運営代の時期－デメリット－

自分たちが模擬国連という学生団体への所属から 1 年も満たず運営を任されるようになった経験の中



で、その「早すぎる運営代」のスタイルから生じた困難も多かった。

- ・適性を判断する材料が少ないため、適材を適所に割り振れない。
- ・信頼関係の未成熟さによる運営に関する事項での衝突が多い。
- ・組織に対する意識の低さによる責任の放棄が起こる。
- ・運営を優先することで、メインの模擬国連活動の優先順位が下がってしまう。
- ・運営終了後、極端にコミットしなくなる会員が多い。

iv) 学生だからこそその組織運営

以上のようなメリット・デメリットを抱えつつも私は日吉研究会で無事に1年間の会長の任を終えた。結果的に、困難に伴って萎縮してしまう経験をしたり様々な可能性をもった時間の多くを費やしたりすることにはなったが、運営を終えた今、何よりも価値のある経験からの成長ができた状態で大学生として新たなステージで活躍できていること、また積極的に同じような経験・運営以上の挑戦に自信を持って取り組もうとする姿勢が身についたことで、今後の学生としての可能性を最大化していけるのであろう。学生だからこそ、早期的な運営を経験することで、残りの学生である時期を最大限に活かすことになる。

また、学生だからこそ先に上げたデメリットにも向き合うことができる。特に、一つの組織を運営する中で、さまざまなビジョンをもった、まだお互いを十分理解しきれていない同期と衝突する機会は貴重なものであったと感じる。利害に囚われず、自分の考えるビジョンをおそれることなくぶつけ合うことで、“学生らしい”組織運営の日々を送ることが出来たのは、とても有意義なことであった。

【Ⅱ】模擬国連を知る

i) 会議の環境づくり

私たちは何のために運営を行っているのか。第一義として、模擬国連を行う環境づくりをするため、というのが正しいであろう。研究会にて通常年6回近く行われる会議にむけて、日々の通常活動でのコンテンツを設定し、会議で扱う知識の最低限のフォローや、模擬国連をスムーズに行うためのノウハウを会員に向けて提供することで、その環境を整える。運営を行っていくうえで、全ての活動の軸となる模擬国連。今回はその模擬国連と運営との結びつきにおいて生ずる事柄について言及していきたい。

ii) 模擬国連への取り組み方

模擬国連のようなコンテンツを扱うからこそ生ずる問題というのは、世間にあるさまざまな活動と種を異

にする部分が多い。その中でも私が運営を行っていく中で、数多の時間をかけ考えを巡らせたひとつの問題を紹介する。

それは、各々の模擬国連へのコミットの差から生ずる問題である。模擬国連の会議を成立させるためには、参加者のほとんどが十分な会議準備をし、最低限のノウハウを備え、自分なりの目標設定をして会議に臨むことが必要とされる。この段階で生ずる問題には、単純に掛けられる時間の量から模擬国連に対する意識の差など、さまざまなファクターが絡んでいる。そして、そこには叱咤等の意識改革レベルの話から提供側のアプローチ方法など、多くの試みが成されはするものの、何か一つの方策で問題が解消するわけではない。どの代も、どの時期においても、新たな問題は山積み続けるのだ。では、運営を行っていく中でその問題はどのように向き合うべきなのか。次項で、運営の経験を踏まえた一例を述べていこうと思う。

iii)「軸」の設定

私の運営経験において、その問題の解消を後押しし続けてくれたのは、揺れることのない軸を設定できたことにある。自分たちなりの結論をだして軸を早い段階で立てることが出来たのは、研究会内で生ずる模擬国連への取り組み方による衝突を極力防ぐことに繋がった。

「相手の取り組み方を否定しない。ただし、その優劣を認め、優位の者は劣位の者を活かす努力を怠らず、劣位の者は、そのアプローチに関しては誠意を持って受け入れること。」

模擬国連というコンテンツは、人の成長を後押しするために有効な道を示してくれる。それを最大限活用するためにも、全ての会員が成長のための相互理解を必要とするのである。それが私たちの運営における模擬国連と携わっていくための軸であった。

ただ一様に軸と言っても、その時々の方の会員のニーズや個性によってあるべき形は変容していくであろう。運営代を担う際には、それを構成する会員の声にしっかりと傾聴してほしい。繰り返すようであるが、以上の事項については、ほんの一例であることに終始するため、せいぜい参考になれば幸いであろう。

【Ⅲ】人との関わりを知る

i)同輩との関わり

偶然同じ時期に団体に所属し、模擬国連活動を続け、一つの組織を運営する同輩たち。その同輩の誰もがお互いを取捨選択する権利は持ちえないし、その者の考え方や特徴を理解して共存していかなければならない。時には、ある同輩の特殊性が運営を阻害しうることもある。そこには、同輩全員が背負うべき責任を生ずることもある。その際に、その同輩を拒絶することは簡単であるが、理解から共存へ促すことは、なかなか骨の折れることなのである。

しかし、苦勞してでもその同輩の特殊性を背負う価値はあると考える。同輩とのつながりは、運営が終わった後どのような形で残るのだ。互いの評価が上昇することもあれば、下降することもありうるため、運営代で衝突して、理解し合えた際に培えたものは、必ず同期の良い雰囲気づくりを後押ししてくれる。私も全ての同輩と拒絶を止め、共存を望むことができたわけではない。だからこそ、切に運営代という時期での

共存を心掛けることの大切さを訴えることができるかもしれない。

ii)先輩・後輩との関わり

組織において、多くの団体が先輩と後輩を同時に抱えながら運営を担うことになると思う。先輩とは、既に運営代を終えた独自の特徴を備えつつも完成されたキャンバスであり、後輩とは、これからどのようなものが描かれるかわからない、可能性に満ちたほぼ真っ白のキャンバスである。では、自分たちが運営代を担う際、その二つのキャンバスをどう扱えばいいのか。

自分の団体における運営代という同じテーマを元に描かれ既に完成されたキャンバスをみて、運営代はその技術や材料を真似ていけばよい。しかし、自分たちの感性と合わない部分は無理に真似る必要はない。オリジナルを追及して、さらに良いものを完成させることを心掛けるべきだろう。そして、真っ白なキャンバスには自分たちの作品を模範にしつつもよりよいものを描いてもらうために、自分たちのキャンバスを完成させることと同時並行で簡単な下書きをしてあげるべきである。自分たちのキャンバスを完成させることに終始せず、再現性にもしっかりと意識を向けることが大事である。

【IV】運営で最も大事だと思うこと

ここまでの章を経て、最後に私が考える運営において特筆して重要だと思うことをまとめたい。それは、「全ての漂う思いや要素を活かして、自分(達)色の運営を仕上げること」である。あえて抽象的にまとめる理由として、運営代を担う皆さんには是非運営代を終えた後に、上の言葉を実感してほしいからである。

時期尚早とも思われる時期に訪れる運営代を担うことによって、未熟すぎる思いや技術に困難を強いられることも多いと思う。そんな時でも、自分たちに用意されている材料で出来ることを考えたり、そこに秘められた可能性を見据えたりすることを忘れないでほしい。模擬国連という取扱いの難しいコンテンツは、運営を行う上で多くの弊害をもたらすこともあると思う。その時、どんな形で組織が模擬国連と向き合うかしっかりと方針を定め、自分たちなりのコミットメントを心掛ければよい。また、さまざまな人との関わりをもとに、いろいろな色を混ぜて、よりよい自分たちのカラーを見つけて欲しい。

運営を行っている途中は何よりも本気で取り組み、全てのものを取り込んで行って欲しい。自分たちの肩の荷が下りる間近の時期、そこに自分たちの色で構成された誇れる運営のカチがあることは、きわめて多くの運営を担っている者を満足させることができるだろう。

それでは、まとまりきらない私見に塗れてしまったが、これにて筆を置くこととしたい。

この先、模擬国連の組織運営を担っていく運営代が素敵な思いの数々を共有できることを祈って。